

神戸市立医療センター西市民病院 公的医療機関等2025プラン

平成30年8月 策定

【神戸市立医療センター西市民病院の基本情報】※平成29年11月1日現在

医療機関名：神戸市立医療センター西市民病院

開設主体：地方独立行政法人神戸市民病院機構

所在地：神戸市長田区一番町2丁目4番地

許可病床数：358床

（病床の種別） 一般病床：358床

（病床機能別）平成29年度病床機能報告 高度急性期：20床、急性期：338床

稼働病床数：358床

（病床の種別） 一般病床：358床

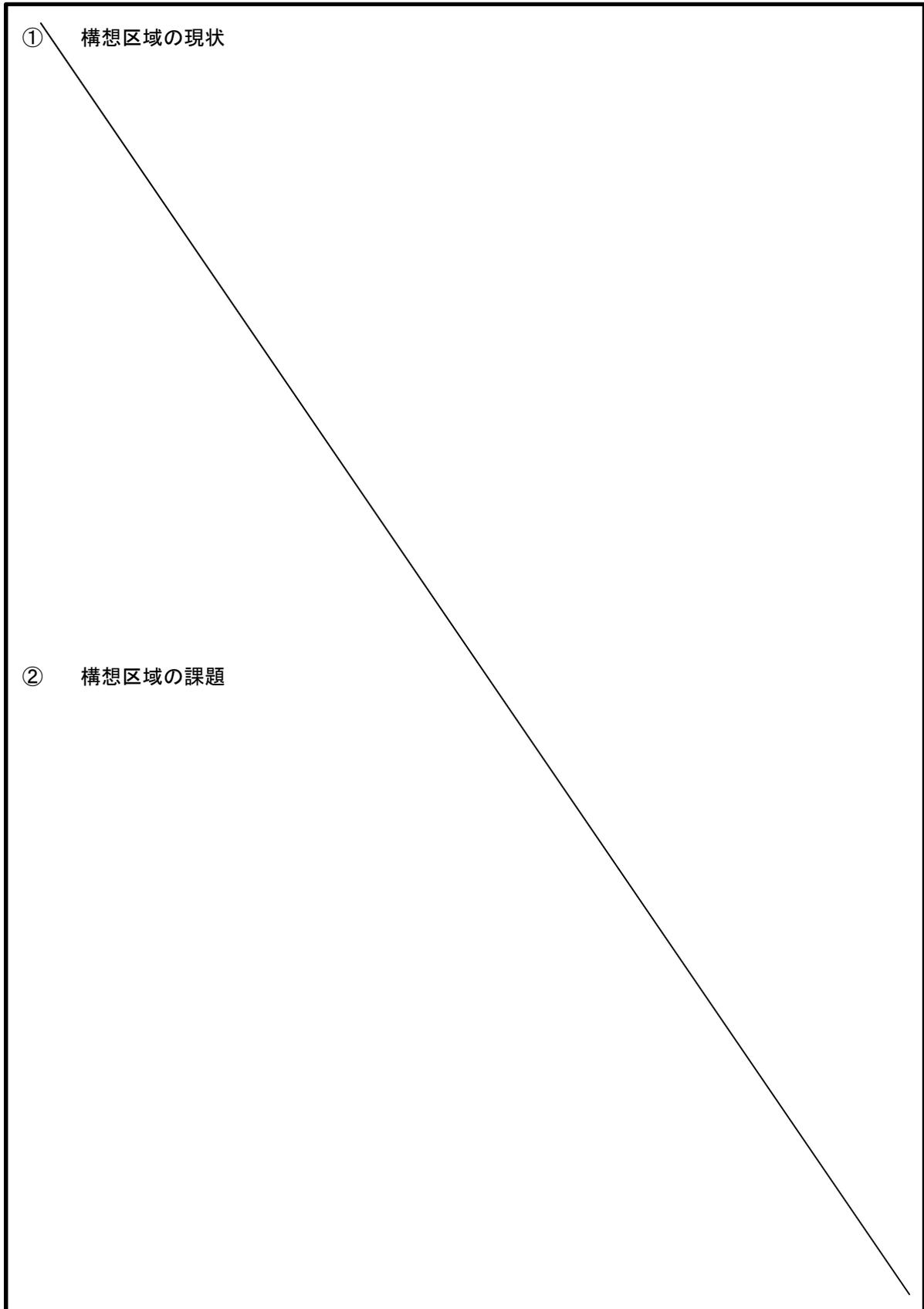
（病床機能別）平成29年度病床機能報告 高度急性期：20床、急性期：338床

診療科目：内科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、
糖尿病・内分泌内科、神経内科、腫瘍内科、小児科、外科、呼吸器外科、
消化器外科、乳腺外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、
耳鼻咽喉科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、精神科、病理診断科、
臨床検査科、リハビリテーション科、救急科、リウマチ科

職員数：

- ・ 医師・歯科医師 103人
- ・ 看護職員 375人
- ・ 専門職 79人
- ・ 労務職員 20人
- ・ 事務職員 30人

【1. 現状と課題】



③ 自施設の現状

④ 自施設の課題

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- 市街地西部（兵庫区・長田区・須磨区）の中核病院としての役割を果たすとともに、年間を通じた24時間体制での安定的な救急医療及び高水準の標準的医療を提供する。また、地域医療機関や介護福祉施設との連携を強化し、医療と介護の架け橋となる病院を目指す。（主な取り組み）

- ・救急医療については、年間を通じて24時間体制で救急医療を提供する。
平成29年度の実績は救急搬送患者に対する応需率は63.1%、応需件数2,857台、時間外ウオークイン患者9,551人（26.2人/日）であった。ひとつの問題は救急搬送に対する低い応需率であり、この改善に取り組む。まずは、救急搬送患者の受入は市民病院そして地域医療支援病院としての大切なミッションであるとの認識を深める。具体的な対策としては、当院ではウオークインの救急患者が多く、そのため外来ベッドが満床となり、救急搬送を断るケースが多いことが大きな原因であると考え、救急搬送用のベッドを常時確保することとする。
- ・小児・周産期医療については、当該地域の中心施設として、安定した周産期医療を提供するとともに、小児救急においては神戸こども初期急病センターの受け皿となる等、小児医療を安定的に提供する。
- ・大規模災害発生時等には、中央市民病院、西神戸医療センター、市、県及び地域医療機関と連携し、円滑な対応を図ることで神戸市災害対応病院として市民の安全を確保する。
- ・がん診療については、患者の負担が少ない手術や高水準の治療をより積極的に行うとともに化学療法の充実を図る等、専門的ながん診療機能を有する医療機関としての役割を發揮する。
- ・5疾病については、地域医療機関と連携を図りながら、地域の中核病院の役割を果たす。急性心筋梗塞については、循環器内科において冠動脈造影検査や血管内治療を行うとともに、心臓リハビリテーションの充実を図る。糖尿病については、糖尿病教室の開催等に取り組むとともに、糖尿病地域連携パスの運用による地域医療機関との連携を図る。精神疾患については、精神障害者の身体合併症病床（4床）を活用し、各精神科病院から「精神保健福祉センター」経由で身体合併症患者を受け入れるほか、地域の専門病院との連携に努める。
- ・地域医療機関と顔の見える連携を図り、信頼関係を構築することで、紹介・逆紹介をさらに推進し、市街地西部の中核病院として地域医療支援病院の役割を果たす。
- ・患者が退院から在宅へと円滑に移行できるよう、入院初期から積極的に退院支援を行うとともに、患者が安心して地域で療養できるよう、地域の在宅診療医や介護施設、訪問看護ステーション等との連携や支援の強化、急変時の受け入れ態勢の強化等を行い、神戸市における地域包括ケアシステムの中での市民病院としての役割を果たす。

② 今後持つべき病床機能

- 病院間の連携強化により救急医療、感染症医療、災害医療等の政策的医療を充実させ、市民病院としての役割を果たすため、当院の急性期病床を最大限に活用するとともに維持していく。

③ その他見直すべき点

- 今後とも市街地西部の中核病院としての役割を安定的・継続的に果たすため、地域医療機関等との連携強化をはじめ、優秀な人材の確保、財政基盤の安定化に取り組む。
- 医療を取り巻く環境の変化、社会経済情勢の変化等により、当院の果たすべき役割が変化した場合は、対応を検討する。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	20床	→	20床
急性期	338床		338床
回復期	—		—
慢性期	—		—
(合計)	358床		358床

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	/	/	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block; text-align: center;"> 2年間程度で 集中的な検討を促進 </div>
2018年度			
2019～2020 年度			
2021～2023 年度			

第7期
介護保険
事業計画

第7次
医療
計画

第8期
介護保険
事業計画

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針> 現状では、見直しは考えていない。

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

<p><u>医療提供に関する項目</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病床稼働率：89.5% ・ 紹介率：52% ・ 逆紹介率：100% <p><u>経営に関する項目*</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人件費率：55.8% <p>その他：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 救急車応需率：80%
--

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

--